

インターンシップ学生がんばってます！

当 NPO 法人では、毎年色々な大学からインターンシップ大学生の受け入れを行っています。2023 年度は 4 人の学生が研修に来てくれました。学生たちは夏休みの朽木キャンプをはじめ、水辺の楽校、吉身幼稚園目田川遊びなど、企画、事前準備から当日の体験学習、安全確保まで、どのイベントでも参加者が安心して学び活動できるようにサポートしてくれました。中でも 11 月 2 日の立入が丘小学校で行ったプラスチックごみに関する環境学習会では、CSO ラーニング制度で研修中の、中村鴻希さん、眞田美咲さんが「5 年 3 組」を受け持ちました。この授業を行うために、事前に勉強会や授業の進め方の練習を何度も行ったそうです。自分の言葉で児童に話す様子は初々しくも堂々としたもので、2 時間の授業があつという間でした。この経験

が今後の 2 人の役に立つならこれほど嬉しいことはありません。お疲れさまでした。



↑この QR コードを読むと動画が見れます

今月の詩

お月様 まあるいお団子 つまみ食い S.Y.

杵の木が 空をあいおいで青葉うけ 秋の実りの準備着々 I.K.

チャンネルを回せば聞こゆ異国語が 孤独の夜を更に深める N.S.

投稿者募集中!!

守山市市勢要覧に掲載されました

守山市のまちづくりの方針や主な施策、市内の地域資源や魅力など、守山市の概要をまとめた「守山市市勢要覧」に当 NPO 法人と目田レンジャーの活動が大きく掲載されました。これを励みに赤野井湾再生や地域との連携、次世代育成など水環境保全活動のため、会員の皆さんと共に頑張りたいと思います。



これからの活動予定

開 開催日時 場 活動場所

◎ 川づくりフォーラム	開 2024 年 2 月 11 日 (日)	場 未定
◎ 赤野井湾小津袋クリーン作戦	開 3 月 2 日 (土)	場 琵琶湖赤野井湾
◎ 水辺の楽校 (春編)	開 3 月 10 日 (日)	場 目田川河川公園

しじみのひとりごと

機関紙「豊穰の郷だより」の発行が 100 号を迎えた。創刊号の発行が平成 9 年 1 月であるから 27 年の歴史を積み重ねたことになる。この間のインターネット、SNS を始めとするメディア技術の発展は、極めて大きく当 NPO もホームページを持ち Facebook などで、機関紙と並行して情報発信している。一方ソフト面では AI がここ 1 年の間に、急速発達を遂げておりマスコミでは AI に記事を作成させる動きも出ている。機関誌編集に与る者としては、記事の内容、取り上げ方・切り口、随伴する写真などが、機関紙を手にする会員の皆様に十分魅力的か、満足してもらえるようになっているか、常に反省して AI に置き換えられないように頑張りたい。

A.K.

豊穰の郷だより Vol.100

2023年11月30日発行 発行部数 1,600部

発行 認定 NPO 法人びわこ豊穰の郷 E-mail houjiyounosato@lake-biwa.net
 理事長 金崎いよ子
 住所 守山市勝部五丁目10-25
 TEL 077-583-8686 (有線 583-8686)
 FAX 077-558-5007
 URL http://www.lake-biwa.net/akanoi/



- 1面 祝 100号発刊
- 2面 第19回世界湖沼会議、水辺百選講座
- 3面 準グランプリ受賞!、集まれ、生き物大好き小学生!
- 4面 インターンシップ学生、守山市市勢要覧

「豊穰の郷だより」発刊 100 号に向けて

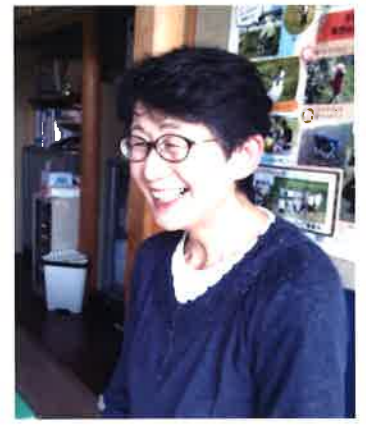
理事長 金崎いよ子

1997 年機関誌「豊穰の郷だより」創刊号発行以来、今回 100 号を発刊できるとなりました。これはひとえに皆様方のご支援とご協力のお陰と感謝申し上げます。

先日、目田レンジャーから質問があり「冊子『20 年のあゆみ』の中で目田川モデル河川の写真は大人ばかりで子どもがいないのはなぜ?」と不思議に思ったそうです。2001 年自分たちが目指す川を造ろうと始めた頃は、みんな元気に活動していましたね。設立当初、赤野井湾再生

に向けて様々な意見がありました。雨水を利用しよう。河川のごみは地域(自治会)で止めよう。赤野井湾でどんな活動をすればいいのか等々、当時の運営委員会は熱く議論されていました。27 年が経過し、今までの活動の成果はびわこ豊穰の郷の財産です。そして持続可能な NPO に向けて、日々努力の積み重ねが必要と感じております。

これからも皆様のご理解ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



「豊穰の郷だより VOL.100」の発刊おめでとうございます

顧問 (元理事長) 北田 俊夫

当 NPO の前身「豊穰の郷赤野井湾流域協議会」が 1996 年 9 月に設立され本年で 27 年目を迎えました。設立翌年の 1997 年 1 月に「機関誌 1 号」が発刊されています。私が本会に入会させて戴いた設立 2 年目の夏、協議会初代理事長の寺田順一郎さんが赤野井の湖辺で「ワシが子供の頃のこの水は本当に旨かった。そんな赤野井湾を取り戻したいんや」と語られた姿が今も忘れられず私の本会における活動の原点です。幸い市民の皆さんや

関係者の努力で赤野井湾の水は再び飲める程度まで回復致しました。市内を流れる多くの川の水もきれいな流れとなり小魚が泳ぎ 5 月にはホテルの乱舞が見られます。当会設立以来、川づくりを続けている目田川では、今若いお母さん達や子供達が「目田レンジャー」として頑張ってくれています。

「豊穰」の諸活動が次の世代に引きつがれていきつつあることを大変頼もしく、大変嬉しく喜んでいる今日この頃の私です。





ケニアからの参加者と

このQRコードを読むと動画↑が見れます

第19回 世界湖沼会議 in Baraton (ハンガリー)



11/7(火)~11/9(木)の日程でハンガリーのバラトンフェレド市で行われた第19回世界湖沼会議に出席をしました。会議の開催地バラトンフェレド市は首都ブタペストから南西130kmほど車で約2時間の場所に位置しています。そこにあるバラトン湖の面積は約595km²、琵琶湖より少し小さな湖です。第3回の湖沼会議もここバラトン湖で行われたそうです。私は2日間会議に出席をしました。当NPO法人からはポスターセッションに参加をし、「ホテルと共に暮らす町」のタイトルで

守山市のホテルをシンボルとした琵琶湖流域の暮らしを紹介しました。そしてポスターにアンケートを含め、7名の方から回答をいただきました。アンケート結果は下記を参照ください。滋賀県からは江島副知事を始め、高校生や大学生も多数参加をしていました。

次回、第20回世界湖沼会議の開催地はオーストラリア・ブリスベンです。

アンケート結果

ハンガリー、マレーシア、イタリア、インド4カ国7名が回答

質問1 あなたの国にホテルはありますか？→はい6、知らない1(イタリア)

質問2 ホテルのイメージは？ →きれい7

質問3 あなたの国のおすすめは？場所、虫、何でもお答えください。

Lake Balaton (ハンガリー)
 Fire fly, Kuala Selangor (マレーシア)
 Kampung Kuantan, Kuala Selangot, Selangor (マレーシア)
 Bolsena Lake, Iseo Lake (イタリア)
 There are fireflies everywhere in India, mainly in the villages (インド)

水辺百選講座

滋賀県立大学名誉教授 秋山道夫さん

今年度の水辺百選講座は、9月に入ってもなお酷暑が続く9月9日に実施されました。午前中に訪れた4つの水辺(吉身川、守山川、山賀川、天神川)はいずれも農業用水路として利用されているもので、田園都市・守山の特徴をよく示す対象でした。このうち、吉身川、守山川には清流が見受けられましたが、山賀川、天神川では水流をあまり観察できませんでした。付近の水田はすでに稲刈りを済ませたところが多く、灌漑のための水はもう必要ではなくなっている時期であることをうかがわせていました。

近年は農作業を身近にみる機会の少ない青少年が増えているので、小学生や中学生だけでなく、高校生や大学生に対しても、用排水路の観察時には水田と水路の関係やそこで観察される堰などの施設についての説明が必要ですが、今回の参加者は半数以上が年配の方であったため、その必要はありませんでした。むしろ、参加者が若い時を振り返って往時の水を取りまく環境と現在の違いについて、各々の体験を語っておられたのが印象的でした。



吉身にある用排水路

ほたるの森資料館のほたる河川にて

準グランプリ受賞！ ～淡海の川づくりフォーラム～

みなさん応援よろしく
お願いいたします！

目田レンジャーエース



↑このQRコードを読むと動画が見れます

川や琵琶湖の生きものたちを守るため、びわこ豊穰の郷で活動する「目田レンジャー」が、日頃の活動を紹介するフォーラムポスターを使って発表し、16団体の中から準グランプリを受賞しました。そのほか、フォーラム来場者から最も多くの応援コメントをいただいた「応援の花さいたで賞」も受賞しました。現在目田レンジャーのエースチームは、2023年淡海こどもエコクラブ壁新聞コンクールにも出展し、12月3日に琵琶湖博物館で開催される交流会発表に向けて練習に精を出しています。目田川を守るためレンジャーそれぞれが気になるテーマを調べて発表します。

壁新聞コンクール出展作品



集まれ、生き物大好き小学生！

8月11日(金)~13日(日)に高島市くつきの森自然研修センターで生き物観察合宿を初開催。小学生10人が参加し、講師として龍谷大学非常勤講師の上西実先生にお越しいただきました。川では魚を捕まえたり泳いだりと全力で遊び、山では土壌生物の採集に熱中。捕まえた生き物は顕微鏡で観察しスケッチや、標本を作りました。目田川で見ることが出来ない生き物もたくさんいて、子どもたちはとても楽しそう！夜もライトトラップにかかった生き物を見に行き、BBQや花火をし、流れ星を見るなど朝から夜まで大はしゃぎでした。くつきの森は自然が豊かで、川や森の生き物を調べ尽くすという目的も達成できたのではないのでしょうか。帰り際に子どもたちが「もう帰るの？もっといっぱい遊びたい、来年も来たい」と言ってくれて嬉しかったです。子どもたちの元気の良さに圧倒されましたが、楽しく学びのある充実した2泊3日でした。



麻生川にて